



精神科看護を地域の皆様に理解していただき、また、これからの高齢化社会を支えていくためにお互いを思いやる心、お世話する事、看護する事に関心と理解を深めていただきたく、ふれあい看護体験を実施しています。毎年、多数の参加希望があり、受け入れを4日間に拡大、参加高校も苫小牧から登別、室蘭、伊達と幅広い地域から45名の学生さんに参加していただきました。

当院ではバスでの送迎から、就労支援センター・ピアチェーレで軽食をとってもらい、理事長の挨拶、オリエンテーション、写真撮影、衛生手洗い、身だしなみチェックを実践。その後6病棟に分かれ、手浴、足浴、注射器の使用、血圧測定、車椅子やストレッチャーでの移動、散歩やレクリエーション等の看護体験をしてもらいました。体験を終えた学生からは「普段できない貴重な体験が出来た」「職員間や患者様の印象が明るくてよかった」「看護体験をして看護師になるという思いが強くなった」などの感想が聞かれ、ふれあい看護体験を通して当院の趣旨の理解を深めていただけたのではないかと思います。また平成28年度に向け、良い看護体験ができるようさらに内容を検討して行きたいと思えます。最後に理事長、看護部長をはじめ、関係スタッフには深く感謝しお礼申し上げます。

第7回三愛千壽まつりを開催

平成27年9月10日(木)に「第14回三愛千壽まつり」を当院駐車場で開催いたしました。天気予報では雨マークで心配していましたが、雲の間から日差しが降り注ぎ、患者さんと職員がステージイベントや手作りの露店などたくさんの催し物で楽しむことができました。



お祭りは千葉泰二理事長の挨拶でスタート。小笠原春一登別市長からあいさつもいただき、職員で構成する和太鼓チーム「雅太鼓」の演奏、市民ボランティアによるフラダンスや新入職員によるダンスのほか、カラオケやリズム体操などで大いに盛り上がりました。

就労支援センター・ピアチェーレによる焼き立てパンの販売のほか、職員手作りの露店も店開し、焼き鳥や焼きそば、綿あめ、かき氷、射的などが並び、参加者全員でお祭り気分を味わいました。

病院理念

1. 精神障害者と高齢者を対象に、医療・保健・福祉のトータルケアを目指します。
1. 自然環境との調和を大切に「癒される」病院創りを目指します。
1. チーム医療により良質で高度な医療と地域に開かれた機能的病院を目指します。
1. 常に謙虚に患者様と御家族の気持ちを尊重し、心のこもった医療の提供を目指します。

基本方針

当病院は自然環境を生かし、アメニティの充実を図ると共に、精神科ではチーム医療における質の高い医療を追求しています。法人グループの各施設がそれぞれの役割を担い、医療・保健・福祉における連携と人権を尊重し、患者様並びに御家族との相互理解を深め、地域のニーズに合った信頼される医療の提供をいたします。

患者の権利

- ・一人の人間としての尊厳を尊重され、丁寧に敬意を持って扱われる権利を有する。
- ・差別されることなく、公平かつ適切で良質な医療を継続して受けられる権利を有する。
- ・医療に関する個人情報を保護されるとともに、私的なことに干渉されない権利を有する。
- ・自己に関する医療行為や医療情報に関して十分な説明を受けることができ、その上で、治療方法に関して選択できる権利を有する。
- ・医療費、公的援助に関する情報や説明を受けることができる権利を有する。
- ・健康や病氣、保健サービスなどについて教育を受ける権利を有する。
- ・医療の充実・改善を図るために、苦情や意見を申し立てることができる権利を有する。



特定医療法人社団千寿会
三愛病院

〒059-0493
北海道登別市中登別町24番地12
TEL(0143)83-1111
FAX(0143)83-1361

【直通TEL】

歯科口腔外科 (0143)83-3991
医療福祉相談室 (0143)83-3207
地域生活支援室 (0143)83-3572
精神科デイケア (0143)83-2520
認知症疾患医療センター (0143)83-3207

【URL】

<http://www.sanai-hospital.or.jp>

【E-mail】

post@sanai-hospital.or.jp

【診療科目】

精神科・老年精神科・内科・老年内科・
心療内科・循環器内科・消化器内科・
リハビリテーション科・皮膚科・
泌尿器科・眼科・漢方外来
歯科口腔外科・歯科

【受付時間】

平日／午前8時30分～11時30分
午後1時00分～4時30分
※午後は予約となります。
土曜日／午前8時30分～11時30分



作成／三愛病院 広報委員会

とおたるけあ



第24号



日本医療機能評価機構認定病院



より質の高い看護サービスを目指して



看護部長
納谷 公子

—昨年10月に看護部長を拝命いたしました納谷と申します。
無我夢中で1年が過ぎ、私事ではありますが一時体調を崩し入院を経験し、患者として、不安や恐怖、痛みや苦しみを身をもって知る機会となりました。そこには医師との信頼関係、看護、介護の温かさや思いやり、他職種医療関係者からの支援など、感謝の気持ち以外の何物でもなく、その経験は私たちが行っている医療・看護を振り返ることができる良い機会となりました。復帰後はたくさんの仲間を支えられたことを実感し、通常の業務をこなしながら日々の問題に対処し過ぎていく事や予定でありました病院機能評価3rd・1の受審を何とか無事終えることができた事など、スタッフの協力、努力に感謝の気持ちでいっぱいです。

来年度、看護部は「安心・安全な看護サービスを提供いたします。」を目標に自身の経験を生かし、患者、家族が望む安心、安全な療養環境を提供できるように援助する力を育て、専門性を発揮するために個々の能力を高められるようなスキルアップ支援体制の整備に力を入れていきます。そして、看護の基本となる温かく、思いやりのある、優しい、人間性豊かな看護、専門的状況判断と実践を実現させるために何が必要かを今一度再確認しながら教育体制を整備し、他職種と協働しやすい環境を作り、チーム医療を実現していく事が目標達成の実現に繋がると考えております。

例年の課題であります離職防止についても、今行っている取り組みに不足している事は何か、看護副部長、各病棟師長との情報交換を密に行い、来年度は事前の対策に力を入れて取り組んで行かなければならないと考えております。

本年も昨年同様皆様のご指導、ご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。



第7回院内研究発表会を終えて

教育研修委員会 安達 輝重

平成27年9月18日(金)に第7回院内研究発表会を開催し、看護・コメディカル・関連施設部門から7演題、当院と交流のある福岡県の福岡病院から2演題の発表、福澤内科診療部長による特別講演が行われました。

他の部署の取り組みを知る貴重な機会であり、意見交換等を通じて参加者一人ひとりが医療サービスの質向上に繋



げる学びの場として実施しており、出席した多くの職員は日頃の研究や実践の成果に熱心に耳を傾け、活発な質疑応答が交わされました。渡邊精神科診療部長・福澤内科診療部長の講評、福岡病院の東院長からの総評では、次の研究への取り組みへのステップアップとなるアドバイスをたくさんいただき、大変有益な時間となりました。

最優秀演題には当院の心理療法士・川村幸大さんの「レビー小体型認知症の簡易評価スケールとしてのMMSE下位項目の有効性について」が選ばれ、成果が形となりました。皆様のご協力により無事終了できたことに感謝いたします。



香山リカ先生をお招きして

「50周年記念市民公開講座」

平成27年10月31日(土)に当法人設立50周年を記念した市民公開講座を登別市中央町のホテル平安で開催いたしました。講師には精神科医で立教大学現代心理学部教授・香山リカ先生をお招きし、ご講演をいただきました。

講演に先立ち、千葉泰二理事長が50周年を迎えるにあたり関係団体、地域の皆様、職員に対して感謝の意を表し「将来の人口減少や少子高齢化問題など医療・介護を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、この地域に貢献できる法人として成長していきたい」と決意を述べました。

この後、香山先生が「ストレスに負けず元気に暮らす」をテーマに講演。情報社会の発展で便利になった反面、ストレスを抱えやすい世の中になっていることを指摘し、自分を褒めることや人に頼ることが大切とお話しいただきました。



全日本病院学会に参加して

精神保健福祉士 畠山 陵

平成27年9月12日(土)、13日(日)、ロイトン札幌で行われた第57回全日本病院学会に参加し、私の研究テーマである「精神科病院における長期入院者の調査・研究」を全国から集まった医療関係者に向けて発表させていただきました。この度の学会での研究発表では、日々業務に追われる中で、精神保健福祉士の専門性について改めて考えるきっかけとなりました。

今回の学会参加全体を通して、初めてこのような大きな学会に参加させていただき、多くの医療機関から様々な研究や取り組みについての講演に触れ、自分にとって非常に強い刺激を受けることができました。日々の業務の中でも、現状にだけ目を向けるのではなく、幅広い視点で業務に取り組んでいきたいと思えます。今後も、このような大きな学会のみならず、研修会等の外と触れ合う機会を大切にしながら、日々の業務に活かしていきたいと思えます。



みについての講演に触れ、自分にとって非常に強い刺激を受けることができました。日々の業務の中でも、現状にだけ目を向けるのではなく、幅広い視点で業務に取り組んでいきたいと思えます。今後も、このような大きな学会のみならず、研修会等の外と触れ合う機会を大切にしながら、日々の業務に活かしていきたいと思えます。

介護老人保健施設事業功労者

厚生労働大臣表彰を受賞しました

平成27年9月2日(水)～4日(金)に神奈川県横浜市で行われた「第26回 全国介護老人保健施設大会 神奈川 in 横浜」にて、千葉泰二理事長が「介護老人保健施設事業功労者厚生労働大臣表彰」を受賞しました。これは長年にわたり、介護老人保健施設関係事業の発展向上に貢献し、老人保健福祉行政の推進に顕著な功績があった者に対して厚生労働大臣がその功績をたたえ授与されたものです。千葉理事長が受賞されたことは、当施設にとって大きな誇りと励みになりました。職員一同、受賞に恥じないよう質の向上に努めて参ります。



東邦大学医学部の学生が

地域医療実習のため来院しました

精神科診療部長 渡邊 伸弥

平成27年6月9日(火)、11日(木)、12日(金)の3日間、東邦大学医学部の5年生2名が地域医療実習を目的に来院されました。平成24年から始まり、今回で4回目となります。

医学生にとっては将来、どのような分野で医師としての使命を果たしていくかを考える大事な時期であり、地域社会から求められるニーズを知り、役割が異なる医療施設での実習を通して視野を広げることは非常に重要なことと考えます。



そういった意味で、当院及び関連施設に触れることは大変、有意義な経験になったと思います。2名の学生さんも病院での診療や作業療法、リハビリテーション部門等に興味を持って真剣に取り組んでくれました。短い期間で当院の基盤であるトータルケアの全てを学ぶことはとても無理ではありますが、この経験が今後、医師として務めた時の一助になればと思っています。

日本精神科医学会学術大会に参加して

精神科デイケア 及川 拓郎

平成27年10月8日(木)、9日(金)に沖縄コンベンションセンターにて開催されました第4回日本精神科医学会学術大会に参加いたしました。当院の看護部門と精神科デイケア部門からは、それぞれ「認知症患者のトイレでの排泄行動維持を目指して～表示によるコミュニケーションの試み～」[「当院精神科デイケアにおける集団歌唱プログラムが対人関係に与えた影響とその要因について」]の演題で発表しました。

フロアからは様々なご意見・ご質問をいただき、新たな気づきを得ることができました。その他の演題発表やシンポジウムでは、地域移行と多職種連携に関するものをはじめ多岐に渡っており、改めて精神科医療の難しさやあるべき姿について考えさせられる機会となりました。今回の体験を日々の業務に活かしていきたいと考えております。

